

## 大阪市立東三国中学校の取り組み

昨日レポートした「子どもをテストで追いつめるな!大阪集会」のパネルディスカッションのなかで、大阪市立東三国中学校で勤務されたことがある校長先生の話が心に残った。どこかで読んだことがあり探してみると、大阪市政調査会『市政研究』189号、2015年10月の特集「橋下後の大阪市政を考える」の住友剛論文であった。論文タイトルは「まずは、子どもの生活と地域社会のありようを見つめることから一大阪の教育の「再生」を考えるために」であり、その中に紹介されていた。

大阪市淀川区にある市立東三国中学校では、「学校元気アップ事業」の枠組みを使って、地域社会の人びとや保護者などが積極的に学校の諸活動に協力している。また、その協力の様子は、学校ホームページだけでなくフェイスブックの「東三国中学校元気アップ事業」のページでも連日発信されている。特色ある取り組みを紹介しておく。

まず、「学校元気アップ事業」で地域社会の人びとが協力しているのは、学校図書室の整備・昼休み時の子どもたちの見守り・定期試験前の子どもたちの自主学習会支援などの活動である。たとえば昼休み時の子どもたちの見守りには連日10人前後の方が参加したり、夏休み中の図書室開放にも連日誰かが手伝いにくるなど、地域社会の人びとの学校運営への協力は手厚い。このような協力が、小さなところからではあるが、教職員の負担軽減等につながっていることは十分推測できる。

一方、このような地域社会の人びとの学校運営への協力に応えるべく、今度は中学校の側からも子どもたちが積極的に地域社会の諸活動に参加していく流れがつけられている。これを校長は「情・動の還流」といい、「情のある行動(元気アップボランティアなど)が生徒、教職員、地域、保護者、それ以外の心ある方の間を廻るように繋がっていくこと」をめざしているという。たとえば同校では子どもたちがジュニア・リーダーとして地域の小学生との交流活動や地域防災活動に取り組んでいる。

東三国中学校のホームページを検索して、現在の「校長あいさつ」に次のように書かれていた。一主に地域・保護者のみなさまからなる「学校元気アップボランティア」の登録数は600名を超え、多くのボランティアさんが来校され、生徒たちや先生たちと交流を重ねています。生徒のボランティア組織「ジュニアリーダ」が結成され、地域のクリーンウォーク、公園清掃、防災訓練、子どもキャンプファイアー、小学校イングリッシュデー、地域運動会、防災リーダ研修会に参加し活動しています。元気アップ支援とジュニアリーダなど相互のボランティア活動は、「情働の還流」として、その絆はすべて循環し、「自分は社会のため、社会は自分のために」を具現化させ、多くの人目がよく行き届き、常に地域と連携できる学校として、子ども達が安心して落ち着いた学校生活を過ごしています。



(2020年3月2日)